

おてつたび、鳴門市と連携し新しいライフスタイル「半農半X」を推進。

取組主体：徳島県鳴門市 / 株式会社おてつたび

「おてつたび」のプラットフォームを利用し全国から参加者を募集。鳴門市や農業に関心のある方に、鳴門市の農家で2週間程度の農業アルバイトを体験してもらうことで、移住交流の促進だけではなく、繁忙期の人手不足解消につなげる。

課題 や現状

- 鳴門市では、テレワークをはじめ多様な働き方の普及や地方移住への関心の高まりを背景に「半農半X*」を新たな移住コンセプトに、移住交流を促進している。「半農半X」は、なると金時、れんこん、らっきょうなどのブランド産品を抱える本市の農業の強みを生かすことができる新たな移住コンセプトである。
- 一方で、全国ブランドを多く有する鳴門市の農業現場では、新たな担い手の確保や、繁忙期の人手不足といった課題が顕在化している。

*「半農半X」とは、家庭菜園、アルバイト、兼業等、形態や規模を問わず農業を生活に取り入れながら、自身のライフスタイルに合わせた「農業以外の仕事(=X)」(ライフワーク、得意なことなど)、で世の中に貢献する新しい生活様式。

解決策や アイデア

- 『おてつたび』は、短期アルバイト（お手伝い）とトラベル（旅）を組み合わせた人材マッチングサービス。
- 鳴門市は『おてつたび』を活用し、5月から6月には「鳴門らっきょ」、7月から9月には「なると金時」の農作業の働き手を募集。
- 参加者は2週間の期間、鳴門市が提供する個室付きシェアハウスで滞在。滞在中、半日は地元の農作業に参加し、残りの時間は自由に過ごせる。
- この『おてつたび』を通じて、鳴門市での暮らしや「半農半X」を体感することで、鳴門市の関係人口の創出や移住交流の促進、繁忙期の人手不足解消を目指した。

取組状況 や成果

- 第1弾の『特産品鳴門らっきょのおてつたび』は、2023年5月2日(火)～6月2日(金)に実施され、東京や愛知、福岡、北海道などから20～60歳代の男女8人が参加した。
- 第2弾の『特産品なると金時のおてつたび』は、2023年7月24日(月)～9月29日(金)に実施され、東京や神奈川、兵庫、北海道、沖縄などから20～60歳代の男女17人が参加した。
- 参加者のうち1名が鳴門市に移住。「らっきょう」の魅力を広めるため起業し、加工品の開発に取り組んでいる。

鳴門市

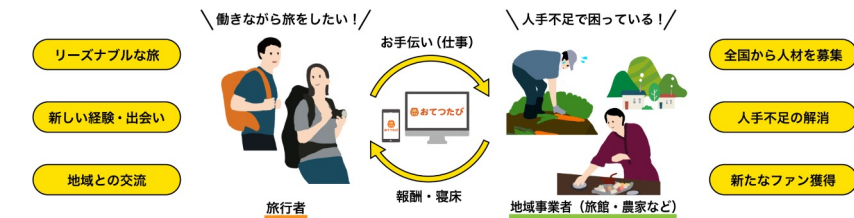
テレワークをはじめ多様な働き方の普及や地方移住への関心の高まりを背景に、なると金時、れんこん、らっきょうなど鳴門市のブランド製品の強みを生かした「半農半X」を新たな移住コンセプトに、移住交流を促進している。

一方、農業振興の観点からは、新たな担い手の発掘や繁忙期の人手不足といった課題がある。

渦潮で有名な「鳴門海峡」や観潮船、シェアハウスからの移動は全国的にも珍しい渡船に乗って自転車通勤など旅の要素としても魅力がある。

おてつたび

『おてつたび』とは「お手伝い」と「旅」を掛け合わせた造語で、短期的・季節的な人手不足で困っている事業者（農家など）と、地域や農業に関心がある方をつなぐ人材マッチングサービスです。旅を切り口にする事で全国各地から人材を集めることが可能。人手不足の解消だけではなく、地域活性化や地域のファン（関係人口）創出につなげています。

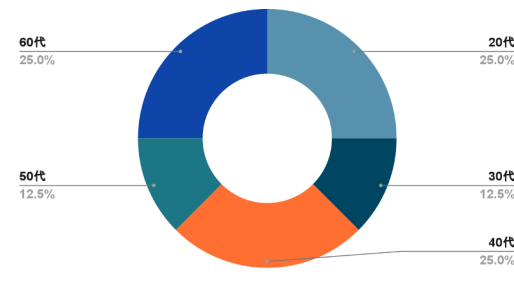


「おてつたび」のプラットフォームを利用し全国から参加者を募集。
鳴門市や農業に関心のある方に、鳴門市の農家で2週間程度の農業アルバイトを体験してもらうことで、移住交流の促進だけではなく、繁忙期の人手不足解消につなげる。

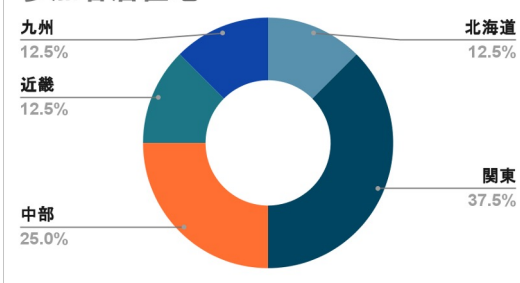
第1弾 特産品「鳴門らっきょ」のおてつたび

- 日程：2023年5月2日(火) ～ 6月2日(金)
- 内容：参加者同士がシェアハウスで交流しながら、半日は特産品「らっきょう」の農作業、半日はフリータイムの鳴門暮らしを2週間
- 参加者数：8 名 (3農家)
- 延べ滞在日数：126 日
- 作業内容：らっきょうの収穫・洗い・選別作業
- 参加者の声

参加者年代



参加者居住地



◎農業のことも鳴門市のことも知らない中参加しましたが、農家さんや参加者の方々だけでなく、地元の方が手を振ってあいさつをしてくれたりするなど、とても温かく接してくれて嬉しかったです。人生の選択肢、そして視野が広がりました。【男性 20代】

◎1日4時間位の作業で、仕事前後に観光したり地元のスーパーで仕入れた食材で調理し生活を楽しみました。ホテルに泊まり観光する旅とはひと味違います。未経験の職業を体験できることやあたかも住民のように生活できることは素敵な経験でした。また参加したいです。【女性 40代】

◎らっきょう好きが高じて、らっきょう農家さんに飛び込んで2週間おてつたびさせていただきました。手がかかっていることを体感することで私のらっきょう愛は深まるばかりでした。また今回はシェアハウスで他のメンバーと共同生活しながらのおてつたびでした。2週間という期間は人と人の心を繋げ、感動を共有するには十分であり、そのおかげで私も50歳でありながら人間として少し成長できたと感じております。【男性 50代】



第2弾 特産品「なると金時」のおてつたび

■ 日程：2023年7月24日(月)～9月29日(金)

■ 内容：参加者同士がシェアハウスで交流しながら、
半日は特産品「なると金時」の農作業、
半日はフリータイムの鳴門暮らしを2週間

■ 参加者数： **17** 名 (1農家)

■ 延べ滞在日数： **255** 日

■ 作業内容：なると金時の収穫・選別・出荷作業

■ 参加者の声

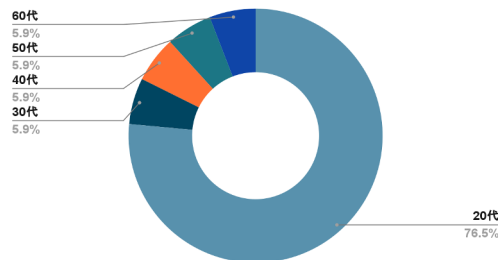
◎おてつたびに初めて参加した大学生です。もともと鳴門市含め四国の土地に興味があったのですが、実際に来てみて大正解でした。特に鳴門市は海に囲まれており、珍しい砂地のさつまいも畑が一面に広がっているの、他では味わったことのない独特な開放感や居心地の良さがありました。おてつたびという形を通して農家の方や地元の人との交流する機会が自然にできたのもとても良かったです。【男性 20代】

◎自分は東京住みなのですが、鳴門に来て時間の流れの違いを強烈に感じました。鳴門の方がゆったりしていてめちゃめちゃ心地よかったです。【男性 20代】

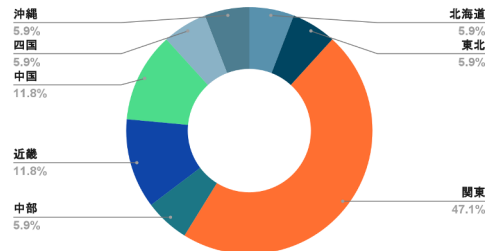
◎現地で農家さんに教えてもらうまで、さつまいもの高級ブランド鳴門金時「里むすめ」のことをほとんど知りませんでしたが、おみやげに箱で5kg購入し、ほくほく系の焼き芋のおいしさに目覚めました。帰宅後に改めて近所の八百屋やスーパーの店頭を見たところ、実は「里むすめ」が堂々と並んでいて、無知蒙昧を恥じるとともに、今ではすっかり気に入ってリピートしています。機会があれば、今後もまた鳴門に伺い、おてつたびに参加したいと思っています。【男性 50代】

◎「里むすめ」を囲んで、農家の皆さん、おてつたび人の皆さん、素晴らしい方々と出会うことができました。「次回も来たい」と強く思っています。【男性 60代】

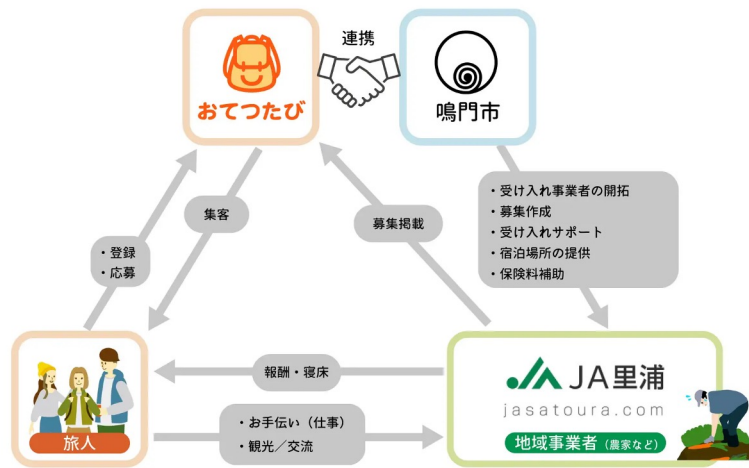
参加者年代



参加者居住地



持続可能な取り組みとするためのポイント



・受入農家の金銭的負担や初回導入のハードルを軽減する目的で、鳴門市が費用の一部をサポート

・参加者の滞在場所の確保が受入においての最大の課題となるが「鳴門教育大学の職員宿舎」を活用し、滞在場所を確保。参加者がシェアハウスで交流できるとともに、事業者が繁忙期に安心して受入ができる体制を構築

・Instagramや移住系ポータルサイト等を活用し、おてつたび・市・参加者が共に地域の情報を発信することで様々な人々へリーチでき、PRの推進に繋がった。



付記（任意）

参加者のうち1名が鳴門市に移住。

「鳴門らっきょ」のおてつたびに参加した50代の男性、おてつたび終了の3ヶ月後（8月）鳴門市に移住。現在は「らっきょう」の魅力を広めるため、鳴門市で起業し、加工品の開発に取り組んでいます。

インタビュー記事：<https://note.com/otetsutabi/n/nc20c1bebeaa5>

関係人口を増やし、人材をシェアする。

日本全体の人口が減っていくことは避けられません。各自治体で人を取り合うのではなく、さまざまな地域に関係人口を増やし、1人が2役・3役、何役にもなって地域に関わり、その地域に住んではないけれど、労働力としてたまに手伝いに来たり、時には観光客として訪れたり、その地域の物を買いつける消費者として地域経済を支えていくことが重要だと考えています。

鳴門市・おてつたびの連携を通じて、全国から人をシェアすることで、人口減少が進む地域でも持続可能な未来を築いていきたいと考えています。